

調査大破綻

名医83人

僕がガンになつたら この先生に診てもらひな

今年、新たにガンに罹患する人が初めて100万人を超える(国立がん研究センター調べ)。そんないま知っておきたい、究極の医師とは!?

「名医は誰か、なんて安易すぎます」

いきなり言われてしまった。発言の

主は、日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍

内科の勝俣範之教授だ。

医療不信の機運が高まるなか、プロ

の医師が推薦するガン治療のエキスパ

ートは誰なのか。本誌では現場の医師

にアンケートを実施。83人から回答を

得た。勝俣医師も名前が挙がった一人

だが、「安易」とはどういうことか。

「マスコミは、ガンをとかく『治る』

「治らない」で区切りたがる。ですが、

世界は「ガンと共存する」時代になっ

ているんです」

勝俣医師は、日本に1千人弱しかい

ない抗ガン剤専門医(腫瘍内科医)だ。

従来のガン治療は外科医が中心で、手

術ありき。そして、臓器別に専門が縦

割りである。その点、抗ガン剤の専門

医はガンを横断的に診ることができ

る。「各臓器の専門医が抗ガン剤を使うよ

り、腫瘍内科医が扱ったほうが安全性

も高く、高い効果が得られる。しかし、

「抗ガン剤は毒」体がぼろぼろになる」

といった誤解も根強い。腫瘍内科医は

非常に少ない。国から補助金をもらっ

ているがん診療連携拠点病院ですら、

まともな抗ガン剤治療を受けられない

ところがある。そんな現状を変えるの

が、我々の課題です」(勝俣医師)

第一線に立つ勝俣医師は「日本に腫

瘍内科医は5千人は必要だ」と言う。

「医師のミシユランガイド」を事業展

開するクリンタル代表の杉田玲夢氏

は、東京大学医学部附属病院眼科から

経営コンサルタント業に転じた変わり

種だ。そんな杉田氏が挙げたのが、N

TT東日本関東病院の寺谷卓馬・ラジ

オ波治療センターセンター長。肝臓ガ

ンラジオ波焼灼術分野を牽引する。

「ラジオ波とは、AMラジオなどの周

波数に近い、周波数約450兆ヘルツの高周波

のことです。腫瘍の中に直径1.5ミリの電

極針を挿入し、ラジオ波電流を流すと、

発生させた熱で病変は固まり、まもなく

死滅するのです」

寺谷医師が注目を集める理由は、一

般的なラジオ波の適応を超えた大きさ

の肝臓ガンや、転移性肝臓ガンにも治

療を積極的ににおこなっているからだ。

「たしかに、エビデンス(根拠)がま

だ少なく、認知度も低い。合併症の頻

度が上がるリスクもあります。しかし、

手術ができない、抗ガン剤が効かない



東京西徳州会病院
渡部和三医師



日本医科大学武蔵小杉病院・
勝俣範之医師



N T T 東日本関東病院
寺谷卓馬医師



行田総合病院
小島達自医師



N T T 東日本関東病院
大西研医師

目の前の患者さんに全力を尽くす。
医師は、ただ、それだけでいい。

と宣告された患者さんに「何もしないのも手です」と平気で言えますか。学会で報告もしており、ネットで成績も見られます。今後5〜10年で一般的な治療法になるという確信のもとに治療をおこなっています」(前出・寺谷氏)

ラジオ波治療は横浜市大や昭和大大、埼玉医大にも広まりつつあるという。

4、5日で社会復帰 人工肛門必至の患者が

前出の杉田氏が挙げたもう一人の診てほしい医師が、同じくNTT東日本関東病院の内視鏡部部長・大圃研医師だ。いま、男性の大腸ガン罹患者が急増し、社会問題になっているが、大圃医師は大腸ガンの内視鏡治療(内視鏡的粘膜下層剥離術)の症例数で日本一を誇る。その腕は、「人工肛門しかない」といわれた患者を4、5日で社会復帰させるほど。従来は専門が分かれる胃、食道、大腸の3つを一人で治療することができる。大圃医師は、現在の内視鏡治療をこう見る。

「内視鏡や腹腔鏡は、手術をおこなう人によって大きな差があります。技術の習熟が必要ですが、水準に達していない医師も少なくない。ある医療機関では安全にできるが、別の機関では厳しい。『やってみたい』というだけで、経験の少ない医師が難度の高い手術をおこなう例はたしかにあります」

大圃医師は、そうした技術格差の解消に尽力している。後輩医師の手術には積極的に立ち会い、海外での技術

※高難度だが根治性も高い最新の内視鏡治療法

「医師が診てもらいたい医師」その①

ここがすごい!	医師名	病院名(所属)	所在	専門	概要
胃ガン腹腔鏡手術で日本一級	宇山一朗	藤田保健衛生大学 上部消化管外科教授	愛知県 豊明市	上部消化管ガン	日本における腹腔鏡手術の先駆者。現在は内視鏡手術用ロボット「ダヴィンチ」を使用した際の技術向上と発展に取り組む
「情熱大陸」出演でも話題に	大圃 研	NTT東日本関東病院 内視鏡部部長	東京都 品川区	大腸ガン	大腸ガンの内視鏡治療のなかでも高難度の手術で症例数日本一で、通常3時間かかる手術も30分ほどで終える。後進の指導にも尽力している
膵臓ガンの5年生存率56.2%	大東弘明	大阪済生会千里病院 副院長・第二診療部長	大阪府 吹田市	膵臓ガン	「肝胆膵領域の手術がうまいと評判」(くろたクリニック・黒田秀也医師)。膵臓ガンの5年生存率は、通常7%といわれる
食道ガンの低侵襲治療に定評	小澤壯治	東海大学医学部 外科教授	神奈川県 伊勢原市	食道ガン	食道は壁が薄く、転移も起こりやすい。手術が難しいガンのひとつだが、患者の体に優しい低侵襲治療をおこない日本有数の実績
食道ガンなど執刀数3千超	小野裕之	静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科部長	静岡県 駿東郡	食道ガン、胃ガン	ESD(内視鏡的粘膜下層剥離)治療の先駆者。国立がん研究センター中央病院勤務時代からITナイフの開発・臨床応用に携わる
闘う抗ガン剤専門医	勝俣範之	日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科教授	神奈川県 川崎市	抗ガン剤治療	「抗ガン剤のオーソリティ。患者の抱える問題に、ともに悩み、戦っていく『同志』といえます」(医療ライター・大政智子氏)
放射線治療で屋台骨を支える	唐澤克之	都立駒込病院 放射線診療科部長	東京都 文京区	放射線治療	「近年、放射線治療器の精度が上がリ、手術と遜色ない結果。肺、前立腺、喉頭、咽頭などの早期ガンで根治が期待できる」(大政氏)
移植までこなす肝ガンの国手	國土典宏	東京大学医学部附属病院 肝胆膵外科教授	東京都 文京区	肝臓ガン、 大腸ガン肝転移	「いかなる大腸ガン肝転移(ステージⅣ)でも手術で治せる可能性をもつ、繊細かつ大胆なスキルを持った先生です」(大場医師)
地域の高齢者医療最前線で	小島達自	行田総合病院 副院長	埼玉県 行田市	骨肉腫、脂肪肉腫 など	介護や在宅医療を手掛けながら、整形外科医として高齢者の骨・軟部腫瘍に向き合う。緩和ケアにも病院をあげて力を入れる
肝胆膵の難治ガンの権威	齋浦明夫	がん研有明病院 肝・胆・膵外科部長	東京都 江東区	膵臓ガン	肝胆膵ガンをオールラウンドに病状に応じてきめこまかく対応。「病気への十分な理解と高度なスキルを持った先生です」(大場医師)

若い医師には「医局にいるな、患者さんと話せ」と声をかけているという。

小島達自・行田総合病院副院長は、地域の高齢者医療の最前線に立ちながら、疼痛治療や緩和ケアにも取り組む稀有な整形外科医だ。小島医師が語る。

「整形外科の扱うガンには、骨肉腫などの原発性骨腫瘍と、脂肪肉腫などの原発性軟部悪性腫瘍、それに転移性骨腫瘍があります。こうしたガンは抗ガン剤や放射線治療が効きにくく、仮に効いたとしても、体を支持する組織である骨・軟部腫瘍は骨折したり、組織が欠損してしまうことも多いのです。よって、手術による切除と再建術は避けられない治療法と考えています」

四肢の骨・軟部腫瘍を専門とする医師は少なく、地域の医局から相談や紹介が絶えない。

「日本の現状を考えると、整形外科医も緩和ケアの問題が重要になってきます。緩和ケアとは、抗ガン剤や遺伝子治療、ホルモン剤などを使わず、痛みで苦しまずに最期を迎えられるようにする療法。手術の症例数のように数値化できるものではないですが、地域医療にとって大事なことだと思っています」(同)

上の表は調査の結果、名前が挙がった「医師が診てもらいたい医師」20人だ。ここに挙げた「名医」のほか、我々はどうのように医師を選べばいいのか。

ガン外科・腫瘍内科の専門医であるセカンドオピニオン外来「東京オンコロジークリニック」代表の大場大医

旋破り大調査 名医83人
 僕がガンになったら
 この先生に診てもらおう



大園医師は、内視鏡手術のレベルを底上げするため、海外でも後進の指導にあたっている

指導にも熱心だ。取材の当日も、中国への出張だという。

地域医療に貢献している医師も、すっかり名前が挙がった。湘南外科グループの高力俊策医師は、東京西徳洲会病院の渡部和巨^{わたべ}院長を挙げた。内視鏡手術や日帰り手術もいち早く手がけ、年間1千例以上を執刀した経験を持つ。院長に就任した現在もメスを握る。

「私の専門は食道ガン、肺ガンで、乳ガンの乳房温存手術にも早くから取り組んできました。そして、小さな痔の手術もおこなってきた。医療の世界はいまやなんでも「専門」。私のような一般外科医としては、いまの過剰な分業制は妙な気がしています。目の前の患者さんに全力を尽くす。医師というものは、ただ、それだけでいい。『手術は受けるな』とか、何十年も使われてきた薬が『服用してはいけない』と突然患者にされるケースが増えていきます。医療者と患者の間から『本当の信頼関係』がどんどん失われてきているような気がします」

「医師が診てもらいたい先生」その②

ここがすごい!	医師名	病院名(所属)	所在	専門	概要
緩和ケアの概念を変えた	下山直人	東京慈恵会医科大学 麻酔科学講座教授	東京都港区	緩和ケア	緩和ケアは看取りのケアではなく、ガンとわかったときから受けるものだと言唱。「最新の緩和ケアを実践する医師の一人」(大政氏)
関西随一の泌尿器ガン執刀医	菅尾英木	箕面市立病院 副院長・泌尿器科主任部長ほか	大阪府箕面市	泌尿器ガン	泌尿器系ガンの執刀数多数。「どんな患者さんを送っても、うまくやってくれます。有能な先生です」(黒田医師)
泌尿器ガンにロボットを積極活用	高田晋吾	大阪警察病院 泌尿器科部長	大阪府大阪市	泌尿器ガン	内視鏡、腹腔鏡手術が得意。泌尿器ロボット支援手術認定プロクターだ。「大阪随一の泌尿器ガン、ロボット手術の名手」(黒田医師)
乳ガン治療のベストドクター	武田泰隆	複十字病院 乳腺センター部長	東京都清瀬市	乳ガン	乳ガンの内視鏡手術のエキスパート。「整容性の高い乳ガン手術に定評」(米戸俊彦・聖ヶ丘病院院長)。昨年、ベストドクターにも選出
ラジオ波治療で末期患者を救う	寺谷卓馬	NTT東日本関東病院 消化器内科ラジオ波治療センター長	東京都品川区	肝臓ガン	「入念な肝臓の超音波検査は術前の深夜にまで及びます。治療チームのムードメーカー的存在でもある」(杉田氏)
肝門部胆管ガンで世界ランク	榑野正人	名古屋大学大学院 腫瘍外科学教授	愛知県名古屋市	胆管ガン	「困難なケースも諦めない」(大場医師)。5年生存率が約2割の胆管ガン、なかでも難度が高い肝門部胆管ガンの手術は世界トップクラス
オーダーメイド医療を推進	西村和郎	大阪府立成人病センター 泌尿器科主任部長	大阪府大阪市	前立腺ガン	「西村先生は前立腺ガンの超プロ。うちの患者さんも紹介してます」(黒田医師)。ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘など先端医療にも積極的
肝臓外科で世界をリードする	松田康雄	八尾徳洲会総合病院 副院長・肝臓センター長	大阪府八尾市	肝臓ガン	「大阪大学でも対応できない患者さんも、手術していました」(黒田医師)。肝腫瘍の造影エコー法を世界に先駆けて開発した
ガンから痔までの総合外科医	渡部和巨	東京西徳洲会病院 院長	東京都昭島市	肺ガン、乳ガンなど	痔からガンまでどんな手術でもこなすオールラウンダー。「院長になっても現場主義を貫いているところを尊敬しています」(高力医師)
国内初「大腸ガン腹腔鏡手術」執刀	渡邊昌彦	藤北里大学医学部 外科教授	東京都港区	下部消化管ガン	'88年、米国に留学。内視鏡・腹腔鏡手術の技術を学ぶ。'92年、国内では初となる大腸ガン腹腔鏡手術を執刀した

師はこう語る。

「肝胆膵領域のガンの手術は、特に病気の十分な理解と高度なスキルが必要だ。すっかりトレーニングし、多くの経験を積んだ外科医でないと、不安がある。年に数例しかやっていないような病院での手術は避けたほうがいい」

ベストセラー小説「孤高のメス」の著者・大鐘稔彦^{おかねしんけん}医師も手術例を重視するが、こんな助言もしてくれた。

「たとえば、5年生存率が低い小細胞肺ガンは、肺ガン全体の10〜15割と少ない。そういう情報を集めようとしても、専門が細分化している現在は難しい。そこで、患者会を活用するとい。情報を発信している方も多いし、患者同士で交流でき、参考になるはずだ」

長尾クリニック院長・長尾和宏医師はこういう見方を示す。

「ダヴィンチ(手術ロボ)の場合、地方の病院で手術をしている画面を、東京で見ながら指示を出す遠隔医療も認められる方向にあります。そうなるとうちの『名医』は、特定の外科医というより、チーム単位で考えるべきでしょうね」

インターネットなら、「がん情報サービス」(国立がん研究センター)、「よみドクター」(読売新聞社)、「DPPC全国統計」(ケアレビュー)などで、症例数も多く、成功率が高く、死亡率が低い医療機関を調べられる。

「手術は受けるな」など一方的な情報を鵜呑みにしては、「名医」に出会うことはできない。